

第 25 号
平成30年 3月27日 発行

朝日庄内森林生態系保全センター

〒997-0404

山形県鶴岡市下名川字落合 3

TEL : 0235-58-1730

FAX : 0235-58-1731

E-mail: t_syounai_f@maff.go.jp

Home Page: <http://www.rinya.maff.go.jp/tohoku/syo/asahi/>

朝日庄内の風

地域イベント（クラフト作り）



常時満席木エクラフトコーナー

10月21日(土)山形県鶴岡市小真木原公園において「庄内森とみどりのフェスティバル2017」が開催され、当センターもブースを出店。朝日山地の写真や今年度のセンターの取組記事をパネル掲示し、来場者にPRを行うとともに、小学生親子等を対象とした木エクラフト教室を実施しました。

パネル展示コーナーでは、朝日山地の四季の写真に見入る人や、保全作業や朝日自然塾等の取組記事を熱心に読んでいる人の姿もありました。

また、職員から生態系保護地域の説明を受け、朝日山地のマナーガイドを手渡されると、興味深そうに目を通していました。

木エクラフトコーナーでは、グルーガンで火傷しないよう、取扱について職員から説明を受けた後、松ぼっくりやドングリ、輪切りの木片等の材料を選び、思い思いの飾り付けや、絵付けを楽しんでいまし

完成した作品に職員から国有林マークのシールを貼ってもらい受け取ると「ありがとう」と思わず笑みがこぼれます。約80名の来場者が、世界でたった一つの記念品をお土産に、会場をあとにしました。

平成29年11月3日(金)山形県鶴岡市下名川落合で開催された「あさひ産業文化まつり」に当センターも参加しました。当日は、晴天に恵まれ、朝日地域の物産等を目当てに大勢のお客さんが訪れて賑わいました。

当センターは、主に松ぼっくりを利用したクラフト作りとして出店し、親子連れや小学生の参加者が途切れることなく思い思いの創作に没頭して楽しんでいかれました。



庄内海岸林整備

山形県西部に位置する庄内海岸のクロマツ林は、多くの先人達により植林され、庄内地方の人々の暮らしと産業の基盤になっている歴史的遺産です。この大切な遺産を守り、後世に引き継いでいくため、行政機関やNPO団体が海岸林の保全事業（活動）を行っています。

10月6日には、遊佐町立遊佐中学校3年生119名による砂防林整備体験学習としてクロマツの枝払い作業、11月20日には、酒田市立松陵小学校5年生55名による森林整備体験学習としてクロマツの枝払い、つる切り、除伐を行い、当センター職員も安全確認や作業の指導者として参加しました。



中学生による森林整備

H29秋季巡視員会議

11月11日（土）に山形県鶴岡市朝日中央コミュニティセンター（すまいる）において、平成29年度朝日山地森林生態系保護地域巡視員会議（秋季）を開催しました。

会議は、巡視員15名、環境省羽黒自然保護官、国有林職員（東北森林管理局、各森林管理署、センター）が出席しました。

開会に先立ち添谷計画課長から、「朝日山地の保護・管理する巡視活動に対して感謝が述べられ、この会議を通じて情報共有を図り、来年度に向け安全な巡視活動をして参りたい。」との挨拶がありました。



巡視結果報告



意見交換

まず、事務局から合同パトロールや看板整備の巡視結果、朝日山地保全作業や天然林への誘導の取組について報告があり、その後の意見交換では、マツノクロホシハバチの確認、イノシシ足跡？の確認、ニホンジカ（子鹿）の目撃が報告されたことから、今後も引き続き情報提供をお願いしました。

また、廃道となった登山道が登山地図に載った箇所があり遭難等の恐れがあることから、山岳連盟から出版社へ地図の修正依頼することにしました。

外来生物の保護林内への侵入状況について、巡視活動を通じて情報提供を要請するとともに、保護林内の特定外来生物については、行政機関で対応を検討することとしました。

朝日自然塾連絡協議会

12月4日（月）、山形県山形市において、平成29年度朝日自然塾連絡協議会を協定締結団体の代表者が集まり、今年度のプログラムの実施結果と評価、次年度プログラムの策定について意見交換を行いました。

開催にあたり、東北森林管理局森林整備部長から「平成18年から始まったイベントは59回、延べ1400名を超える人々に体験して頂いている。これは、ひとえに各団体の皆様のご協力の賜でありお礼申し上げます。来年度のプログラムが森林の中で自らの体験や学びを通して生きる力を育てる場となるような議論をお願いしたい。」との挨拶がありました。



意見交換



プロテクター有り（右）、なし（左）

今年度のプログラムについて、参加者（家族）へのアンケートの結果、好評だったとの意見が多かったものの、時間が長く子供が飽きてしまったとの意見を頂いたことから、来年度のプログラムについては、子供達が飽きないよう時間配分やプログラム内容を検討することとしました。

また、朝日山地の保全に関することとして、「ストックを使ってる登山者に登山道や沿線の自然を傷つけないよう、状況に応じてストックの先端にプロテクターを着けてもらうよう指導していく必要がある。」との意見を頂いたことから、来年度の巡視活動においては、ストックの使用方法等について協力要請を行うこととしました。

みどりの保育園（松ぼっくりツリー）



飾り付けをする園児

12月7日（木）に山形県酒田市西荒瀬保育園において、松ぼっくりを使ったクリスマスツリー作りを行いました。

はじめに、園児22名による「クロマツの歌」の合唱の後、ツリーの作り方や材料の松ぼっくりは、ふだん見かけるクロマツの松ぼっくりではなく、サンタさんが住んでいるヨーロッパ原産のドイツウヒの松ぼっくりであることなどを説明したあと、5班に分かれてツリー作りを行いました。

園児は、好きな材料を選んでツリー作りに取りかかりましたが、最初は材料をツリーにうまく付けられず苦労していましたが、時間が経つにつれ思い思いの飾り付

けを行い完成させました。

最後に園長から「今日作ったツリーはお店には売っていない、世界にたった一つのクリスマスツリーだから大切にしよう」と話しかけていました。

クマタカ観察会

1月18日（土）山形県遊佐町杉沢「比山伝承館」において、環境省猛禽類保護センター活用協議会主催による観察会「森の王者クマタカ」が開催され、当センター職員2名が参加しました。

観察会では、クマタカのほかノスリやハヤブサなどの猛禽類も観られるとあって、小学生から年配の方まで多くの愛好者がつめかけました。2台のフィールドスコープと多くの双眼鏡が準備され、いざスタートとなるはずが無情にも突然の雨、楽しみにしていた観察会は中止を余儀なくされました。

室内に場所を変更し、猛禽類保護ネットワークの伊藤智樹氏よりクマタカの生態について、スライドを使った講演を受けた後、当センターから林野庁が行っている希少野生動植物保護の取組や保護林・緑の回廊が果たしている役割、適切な森林施業がクマタカ等の生息環境を維持しているなどを解説しました。



保護林について解説

地域イベント(かんじき体験)



かんじきを履かせてもらう子供

1月20日（土）及び2月18日（日）に山形県鶴岡市朝日地区（道の駅「月山」）において、「親子雪国体験交流会」及び「月山あさひ雪まつり2018」が開催され、当センターも「かんじき体験」に参加しました。

1月20日は、茨城県北茨城市内の小学生と保護者の親子30組が雪国を体験するもので、「除雪車見学」、「かまくらづくり」、「かんじき体験」等を体験しました。かんじき体験では、職員やスタッフからかんじきを履かせてもらい、雪原を歩いたり、坂で雪滑りをして楽しんだ後、冷え切った体に暖かい「キジ汁」を食べてほくほくしていました。

2月18日は、鶴岡市内及び近隣市町の市民等を対象に行っている雪まつりで、この日行ったイベントは、雪ん子ちゃんに大変身、ゴジラ坂けつつすべりコーナー、巨大熊ストラックアウト、ストラックライン等の体験や地元の食材を使った屋台村が開店しましたが、当日はあいにくの天候で参加者も少なく感じました。

「かんじきde雪歩き体験」コーナーには、かんじきは初めの親子が訪れ、職員から履き方を教わりながら長靴に縛り付け、慣れない足取りで雪原の中を楽しんでいました。



雪原を歩く親子

朝日自然塾（かんじきトレッキング&月山めのうづくり）

第4回朝日自然塾「かんじきトレッキング&月山めのうアクセサリーづくり」は、3月10日（土）朝日山地の麓、山形県西川町大井沢に24名の参加者が集合し、木々の芽吹きやメープルシロップの採取、月山めのうのアクセサリーづくりを体験するなど、参加者の皆さんは自然の豊かさ素晴らしさ、そして大切さをそれぞれに感じ取っていました。

当日は、時折柔らかな春の日が差し込む絶好のトレッキング日和。参加者の皆さんは元気に西川町自然と匠の伝承館前を出発。初めてのかんじきに足を取られ悪戦苦闘する参加者も見られましたが、途中、オニグルミやホオノキの冬芽に触れ春の息吹を感じ取ったり、朝日連峰が見渡せるビューポイントや急斜面を利用した迫力満点のそり滑りを楽しみ、全員が約2キロのトレッキングコースを無事踏破しました。



メープルウォーター採取

午後からは、もう一つの目玉、月山めのうでアクセサリーづくり体験。月山めのうは、ブナの原生林朝日山地の麓で発見され、大井沢の人達は昔からこの石を飾り石として床の間や玄関先に飾っていました。参加者の皆さんは、大自然がつくったこの石を丁寧に磨きながら自分だけのオリジナルの作品に仕上げていきました。

メープルシロップの採取では、スタッフの説明に熱心に耳を傾け勉強する親御さんの姿やメープルウォーターに自然の恵みも体感しました。



冬芽の観察



「めのう」の磨き作業

スノーモービル合同パトロール



注意事項の説明

センターでは、毎年春分の日前後から5月の連休までの期間に、保護林内へのスノーモービルの乗り入れの自粛を求めるパトロールを行っています。パトロールを実施する月山地区（山形県西川町）は、スノーモービルの愛好者で結成された「自然を守るスノーモビラーの会」があり、自主ルール（月山特別ルール）を作り会員に遵守させている地区です。

今シーズンは、3月21日（水）が走行初日となったことから、センター職員から保護林への乗り入れ自粛の要請と樹木への損傷防止を呼びかけるとともに、朝日山地マナーガイドを配布して協力を求めました。

また、3月24日（土）は、保護林へのスノーモービル乗り入れやトラックベルトによる樹木の損傷の確認を行うため、環境省羽黒自然保護官事務所、山形森林管理署、スノーモビラーの会合同でパトロールを行いました。

当日は、パトロールの目的やルートを確認した後、2班に分かれて行いパトロールの結果を「自然を守るスノーモビラーの会」へ伝え注意喚起を行いました。

今後もスノーモービルの走行が終了した時点で樹木への損傷確認等を行う予定としています。



編集後記

今シーズンは例年になく早めに雪が降り、事務所でも最高積雪深が220cmまで積りましたが、冬のイベントである雪上トレッキングや観察会は天候にも恵まれ、また、関係者のご協力により無事終えることができました。新年度も新しい体制で朝日山地の保全業務等に取組みますので、ご支援をお願いします。

なお、各イベントの実施結果につきましては、当センターのHPに掲載しています。

(<http://www.rinya.maff.go.jp/tohoku/syo/asahi/index.html>)